



年表

天王寺動物園

これまでのあゆみ



- 1884 (明治 17) 大阪府立博物館附属動物檻、設置 (現在の中央区本町橋 2 丁目)。
- 1915 (大正 4) 1 月 1 日、大阪市立動物園として開園 (大人 5 銭、小人 3 銭、4 歳未満無料、飼育動物数: 60 種以上 230 点、面積: 26,025 m²、年間入園者: 約 57 万人)。
- 1916 (大正 5) 春に夜桜開園、夏には納涼夜間開園を実施。
- 1919 (大正 8) 7 月、東京帝室博物館よりシロクジャク 1 羽を譲り受ける。
- 1921 (大正 10) 6 月 21 日、スマトラサイを 23,500 円で購入 (日本初)。
- 1925 (大正 14) 10 月 24 日、ダチョウの人工ふ化に成功 (日本初)。
- 1926 (大正 15) 11 月 11 日、アジアゾウの常盤 (雌) が来園。
- 1927 (昭和 2) 10 月 8 日、チンパンジーの太郎 (雄) が来園。
- 1928 (昭和 3) 12 月 30 日、31 日を休園日として制定。それまでは無休であった。
- 1929 (昭和 4) 3 月 16 日、ウォンバット、ハイロカンガル来園。
- 1930 (昭和 5) 武徳殿付近の公園通路を園内に取り入れる (総面積 26,670 m²)。
- 1931 (昭和 6) 4 月 11 日、マンドリル来園 (日本初)。
- 1932 (昭和 7) 4 月、第 1 次拡張計画着手。
7 月 23 日、名演技で有名になったチンパンジーのリタ (雌) 来園。
- 1933 (昭和 8) 6 月 28 日、ブチハイエナ初来園。
- 1934 (昭和 9) 4 月 1 日、地下道、東側壁に淡水水族館開設。
6 月、鳥根県隠岐島北西の竹島で、ニホンアシカ始め 16 点の海獣、海鳥を捕獲し展示。
6 月 24 日、チンパンジーのロイド (雄) 来園。
チンパンジーのリタの演技が人気を集める。
1932 年から着手した第 1 次拡張工事が終了、この工事でキリン舎、ホッキョクグマ舎、海獣舎完成 (総面積 57,270 m²)。
年間有料入園者過去最高 251 万人を記録。
- 1935 (昭和 10) 4 月 1 日、開園 20 周年記念動物園まつり開催。
6 月 4 日、シャム国少年団より親善のためアジアゾウのランブル (雌) が贈られる。ソウ放飼園、カバ舎新設。
天王寺公会堂跡を編入 (総面積 60,570 m²)。



- 1936 (昭和 11) 6 月 17 日、ニホンアシカ初繁殖。
- 1937 (昭和 12) 5 月 29 日、オーストラリア、シドニー市タロンガ動物園と動物交流でウォンバット、アカカンガル来園。
出征勇士のためにトラの毛を求める人々増える。
- 1938 (昭和 13) 3 月 18 日、レッサーパンダ初来園。
4 月 9 日、空襲、天災事変に備えて逃走猛獣捕獲演習実施。
7 月 10 日、時局がら、納涼夜間開園を中止 (恒例では 7 月 25 日から 8 月 25 日まで)。
8 月 ~、動物たちにも節約による愛国運動がおよび、絶食日や代用食を給与することとなる。
- 1939 (昭和 14) 輸入統制のため、新しい動物の来園がとどえてくる。
- 1940 (昭和 15) 7 月 23 日、チンパンジーのリタ (雌)、死産の後死亡。
7 月 29 日、リタの動物園葬を行う。
8 月 14 日、土木部より教育部に所属変更 (教育部動物園)。
8 月 ~、動物の飼料不足始まる。
11 月 ~ 12 月、チンパンジーのロイド (雄) の日本名への改名が問題となる。後に勝太と改名。
空襲、天災事変に備えて逃走猛獣捕獲演習を行う。
動物にも絶食日や代用食を給与する日が増加。
- 1941 (昭和 16) 5 月 20 日、紀元 2,600 年を記念して「動物 2600 年史」発行。
8 月 14 日、教育部より総動員部へ所属変更 (総動員部動物園)。
- 1942 (昭和 17) 1 月 20 日、燃料、飼料不足のためアジアゾウのランブル (雌) 死亡。
3 月 20 日、アジアゾウの常盤 (雌) 死亡。
6 月 11 日、総動員部より市民局へ所属変更 (市民局動物園)。
- 1943 (昭和 18) 1 月 23 日、林佐一園長退職、後任、寺内信三園長。
4 月 27 日、阪神パーク閉鎖に伴い、アジアゾウのトム (雌)、カンガル、サル、ツル等の無償譲渡を受ける。
9 月 1 日、防空演習、動物射殺の演習を実施。
9 月 4 日、ヒグマ他 3 頭の猛獣を業殺。猛獣類の処分始まる。
園内の空地はサツマイモ、麦畑、菜園となる。
- 1944 (昭和 19) ~ 3 月 15 日、前年 9 月から始まった猛獣類の処分でライオン始め 10 種 26 頭を犠牲にする。
9 月 7 日、寺内信三園長召。有料入園者は 41 万人と急降下。
食糧不足により、ゾウ、キリンなどが栄養失調のために死亡。入園者が興味を持つ動物たちがどんどん減少していく。



- 1945 (昭和 20) 3 月 13 日、大阪大空襲で園内に焼夷弾 2,000 発落下、猛禽舎焼失、オオワシなど 10 種 33 点死亡。出征中の寺内信三園長の後任に筒井嘉隆園長就任。
9 月 15 日、市民局より教育局社会教育課に所属変更 (教育局社会教育課動物園)。
- 1946 (昭和 21) 2 月 8 日、寺内信三復員に伴い園長に再任。
2 月 15 日、教育局より教育部に所属変更 (教育部社会教育課動物園)。
- 1947 (昭和 22) 7 月 22 日、教育部より土木局に所属変更 (土木局緑地課動物園)。
11 月 1 日、大阪市復興祭動物園子供大会開催。
- 1949 (昭和 24) 3 月 3 日、タンチョウ 2 羽 (雄、雌) 購入。
- 1950 (昭和 25) 4 月 14 日、戦後初の外国産動物としてタイからアジアゾウの春子 (雌) 来園。4 月 15 日、1 日の有料入園者数 6 万人を超える (過去最高)。
- 1951 (昭和 26) 5 月 31 日、チンパンジーのシュジー (雌) 購入。
10 月 18 日、ライオン、トラ、ヒョウ来園。
- 1952 (昭和 27) 3 月 20 日、大阪産業経済新聞社・大阪市共催の講和条約成立記念「婦人と子ども大博覧会」が公園および動物園を中心に開催。
第 2 次拡張工事が行われ武徳殿跡、日本庭園を編入 (総面積 83,670 m²)。
- 1953 (昭和 28) 5 月 24 日、トラ (3 頭) の繁殖に初めて成功。
- 1954 (昭和 29) 4 月、5 ヵ年計画で園内施設改修工事が着手。爬虫 類舎および小鳥の家新設。
12 月 4 日、ベイサオリックス来園。
- 1955 (昭和 30) 4 月 8 日、ベイサオリックスの繁殖に成功 (日本初)。
12 月 28 日、博物館相施設に指定される。
- 1956 (昭和 31) 1 月 11 日、オオアライクイ初来園。
- 1957 (昭和 32) 3 月、動物慰霊碑除幕式。
4 月 1 日、動物園駐車場開設。
- 1958 (昭和 33) 1 月 13 日、ドリル初来園。
- 1959 (昭和 34) 7 月 11 日、土木局から公園部に所属変更 (公園部動物園)。
11 月、サイ舎新設。
- 1960 (昭和 35) 6 月 11 日、セイランの人工ふ化に成功 (日本初)。
10 月、ゴリラ舎新設。
- 1961 (昭和 36) 4 月 1 日、動物園改造 5 ヵ年計画に着手。
10 月 30 日、ニホンジカ放飼場および水禽放養舎新設。



- 1962 (昭和 37) 1 月 27 日、キリン舎、サルアパート完成。
1 月 31 日、寺内信三園長退職。
後任、和田辰巳園長。
3 月 31 日、ペリカン舎、オランウータン舎完成。
- 1963 (昭和 38) 8 月 12 日、ライオン・トラ放飼場・寝室完成。
11 月、南園小宝亭を編入 (総面積 87,470 m²)。
年間有料入園者戦後最高 169 万人を記録。
- 1964 (昭和 39) 5 月 6 日、アミメキリンの初繁殖に成功。
5 月 9 日、シュバシコウの繁殖に成功 (日本初)。
7 月 4 日、大阪市立動物園を大阪市天王寺動物園に改称。
- 1965 (昭和 40) 7 月 17 日、第 3 次拡張工事で天王寺公園グラウンドを編入 (総面積 103,970 m²)。
11 月 1 日、開園 50 周年記念式典・記念祭を開催。動物園月刊誌「なきごえ」創刊。
- 1966 (昭和 41) 7 月 26 日、大暑の日、ホッキョクグマに氷柱をプレゼント (以後、恒例となる)。
12 月 12 日、サンフランシスコ動物園よりリカオン来園。
- 1967 (昭和 42) 3 月 31 日、ラクダ・カンガル舎完成。
10 月 20 日、カバ舎完成。
- 1969 (昭和 44) 10 月 3 日、オーストラリア政府よりニシロカンガル受贈。
- 1970 (昭和 45) 5 月 5 日、日本万国博覧会を記念してインド政府よりアジアゾウのラニー博子 (雌) 受贈。
6 月 24 日、日本万国博覧会を記念してアメリカ政府よりプレーリードッグ受贈。
7 月 9 日、日本万国博覧会を記念してニュージーランド政府よりキーウィ受贈 (日本初)。
- 1971 (昭和 46) 1 月 1 日、サンパロ訪日企業視察団よりオニオオハシ受贈。
- 1972 (昭和 47) 4 月 1 日、入園料改定で中学生以下無料となる。
4 月 17 日、和田辰巳園長退職、後任、中川道朗園長。
- 1973 (昭和 48) 4 月 1 日、サンフランシスコの姉妹都市提携 15 周年を記念して当園からタヌキ、サンフランシスコ動物園からダマジカ (白変種) の動物交換。
4 月 4 日、公園部から公園局管理部に所属変更 (公園局管理部動物園)。
- 1974 (昭和 49) 7 月 5 日、日中国交回復を記念した動物交換でタンチョウ、モウコガゼル 2 頭 (雄、雌) (日本初) が北京動物園から来園。
8 月 22 日、上海・大阪友好都市提携を記念して上海動物園よりチュウゴクオオカミ 2 頭 (雄、雌) (黒変種)、マナヅル 2 羽 (雄・雌) 来園。
- 1975 (昭和 50) 2 月 1 日、開園 60 周年を記念して、サンディエゴ動物園よりシンリンオオカミ受贈。
8 月 1 日、第 1 回サマースクール開催。
10 月 2 日、サンディエゴ動物園よりコヨーテ受贈。
10 月 8 日、シカゴ、リンカーンパーク動物園よりカナダヤマアラシ来園。
11 月 29 日、韓国、昌慶園動物園よりワシミミズクとチョウセンヤマネコ来園。





- 1976 (昭和 51) 5月、大阪動物園ボランティアーズが発足。
7月20日、ビルマ(当時)、ラングーン動物園からムツアシガメ、ムテヒビ来園。
- 1977 (昭和 52) 1月27日、バングラデシュ、ダッカ動物園からジャングルキヤット来園。
8月2日、モウコガゼルの繁殖に成功(日本初)。
11月2日、上海市との第2次動物交流でベニジュゲイ4羽(雄2、雌2)来園。
- 1978 (昭和 53) 2月17日、ワシミズクの繁殖に成功。
4月16日、ジャングルキヤットの繁殖に成功(日本初)。
11月3日、上海市との第3次動物交流でニホンコウノトリ2羽(雄、雌)来園。
11月4日、こたりの家が日本宝くじ協会の寄付で完成。
- 1979 (昭和 54) 5月5日、大阪信用金庫様より白雪姫時計台受贈。
6月1日、中川道朗園長退職。後任、橋本一郎園長。
6月29日、オーストラリア、メルボルン動物園からワライカワセミとヤブツカツクリ来園。
- 1980 (昭和 55) 7月25日、バカの繁殖に成功(日本初)。
7月29日、アカハシリウキウガモの繁殖に成功(日本初)。
- 1981 (昭和 56) 3月20日、コウノトリ舎完成。
10月28日、上海市との第4次動物交流でチュウゴクオオカミ2頭(雄、雌)(黒変種)来園。
- 1982 (昭和 57) 7月3日、ニュージーランドのオトロハンガ動物学協会からキーウィ3羽来園。
- 1983 (昭和 58) 5月31日、橋本一郎園長退職。後任、土井良彦園長。
10月5日、オーストラリア・ヴィクトリア製造業会議所よりハリモグラ受贈。
10月12日、上海市との第5次動物交流でニホンコウノトリ2羽(雄、雌)、フランソワルトン2頭(雄、雌)来園。
- 1984 (昭和 59) 3月28日、キジ舎完成。
10月26日、オーストラリア・タスマニア州よりタスマニアデビル受贈(日本初)。
- 1985 (昭和 60) 1月15日、夜行性動物舎、レクチャールームがオープン。
4月10日、開園70周年を祝って上海動物園よりコジャコウネコ2頭(雄、雌)、アオミミキジ2羽(雄、雌)受贈。
10月13日、開園70周年記念シンポジウム「動物との共存を図るために」を開催



- 1986 (昭和 61) 4月27日、サル・ヒヒ舎完成(ヒヒ舎は日本宝くじ協会の寄付)。
- 1987 (昭和 62) 3月31日、東門、駐車場閉鎖。
6月3日、上海市との第6次動物交流でニホンコウノトリ、アジアゴールデンキヤット、コジャコウネコ来園。
8月1日、天王寺公園と動物園を会場に11月8日まで開催された天王寺博覧会に合わせて「鳥の楽園」がオープン。
11月16日、ホッキョクグマのユキコがこゆきを出産。(本州以南で初の成功)
- 1988 (昭和 63) 5月14日、ガラス張りのヒョウ舎完成。
- 1989 (平成元) 3月31日、土井良彦園長退職。後任、伊東重朗園長。
5月2日、コアラ館完成。
6月1日、オーストラリア、メルボルン動物園から第1陣コアラ3頭(雄1、雌2)来園。
11月6日、レッサーパンダ舎完成。
11月6日、上海市との第7次動物交流でレッサーパンダ2頭(雄、雌)クロトキ4羽来園。
- 1990 (平成 2) 2月24日、新世界ゲートを新設し南門を閉鎖する。天王寺公園との組織一体化に伴い、天王寺動物園事務所となる。
4月25日、オーストラリア、メルボルン動物園から第2陣コアラ3頭(雄1、雌2)来園。
10月26日、ガラス張りのオオカミ舎完成。
5月24日、日本のシシオザルの繁殖計画を策定し、国際協力でアメリカのワシントン動物園から雌来園。つづいて8月3日アメリカのセントルイス動物園から2頭(雄、雌)来園。
- 1991 (平成 3) 3月31日、伊東重朗園長退職。後任、中山良三郎園長。
7月26日、コアラの繁殖に成功(当園初)。
10月2日、上海市との第8次動物交流でヨウスコウワニ2頭、アネハヅル2羽来園。
- 1992 (平成 4) 9月8日、チンパンジー・オランウータン舎が完成。
- 1993 (平成 5) 3月24日、ドイツ・ライプチヒ動物園からメガネグマ(雄)来園。
5月24日、上海市との第9次動物交流でウンビョウが来園。
6月11日、ニホンコウノトリの繁殖に成功(当園初)。
7月16日、シンガポール動物園からチンパンジーの親子来園。
10月14日、(社)日本動物園水族館協会の種保存委員会全国拡大会議が大阪で開催され、同協会総裁の秋篠宮文仁親王殿下が天王寺動物園をご視察。

- 1995 (平成 7) 3月、ZOO21基本計画案策定。
3月23日、生態的展示の手法を取り入れた爬虫類生態館(IFAR)がオープン。
3月31日、中山良三郎園長退職。後任、樽本勲所長。



- 4月4日、上海市との第10次動物交流でヨウスコウワニ、チュウゴクオオタマガメ来園。
5月15日、ニシゴリラのゴロ(雄)を千葉市動物園に貸出。ゴリラの飼育が途絶える。
9月9日、開園80周年記念式典を大阪国際交流センターで開催。一日園長に柳生博さんと大塚露那さんを任命。
10月7日、開園80周年を記念してオーストラリア、メルボルン動物園からコアラ2頭(雄、雌)来園。
- 1996 (平成 8) 1月2日、ワレンヨロイトカゲ自然繁殖(日本初)。
2月20日、シンガポール動物園からマレーグマ2頭(雄、雌)来園。
4月26日、マダガスカルジャコ人工繁殖に成功(日本初)。
6月23日、タンザニアアカノドジャコ人工繁殖に成功(日本初)。
9月27日、シンガポール動物園からスナドリネコ2頭(雄、雌)来園。
10月7日、クロサイのサトミ(雌)をアメリカ、カードウェル動物園に貸出。
10月29日、カラカル2頭(雄、雌)繁殖(当園初)。
- 1997 (平成 9) 3月31日、樽本勲所長退職。後任、井坂進所長。
6月10日、上海市との第11次動物交流でヨウスコウワニ4頭(雄4)、コジャコウネコ2頭(雄、雌)来園。
6月28日、ヒョウモントカゲモドキ自然繁殖(日本初)。
7月3日、レッサーパンダのテンテン(雄)誕生(当園初)。
9月23日、生態的展示の2番目の動物舎として、日本初の水中を見ることが出来るカバ舎オープン。
10月28日、フロリダアカハラガメ繁殖(日本初)。
- 1998 (平成 10) 2月12日、フサオネズミカンガルー(雄)繁殖確認(当園初)。
6月10日、ナベヅル(雌)繁殖。(当園初)
13日に2羽目(雌)繁殖。
10月17日、生態的展示を取り入れたサイ舎オープン。
12月2日、ヒョウモンガメ繁殖(当園初)。
12月20日、フクロモモンガ繁殖(当園初)。
- 1999 (平成 11) 2月17日、当園が中心となり日本のシシオザルの繁殖計画を策定しアメリカのウッドランドパーク動物園の協力を得てシシオザル6頭(雌6)を受け入れ、当園を含む4園に配分。
3月31日、井坂進所長退職。後任、中川哲男園長。
9月12日、ニューギニアナガクビガメ3頭繁殖(当園初)。
6月16日、上海市との第12次動物交流でアジアゴールデンキヤット2頭(雄、雌)来園。
11月11日、クロサイのサミー(雄)誕生。

- 2000 (平成 12) 平成12年度に、建設局花と緑の推進本部よりゆとりとみどり振興局に所属変更(ゆとりとみどり振興局天王寺動物園事務所)。
2月20日、レクチャールームで行う「獣医さんのお話」を開始。(毎月第3日曜定例化)
4月22日、大阪信用金庫様より受贈したクロサイのブロンズ像の贈呈式を開催。
5月19日、アジアゾウのエリ子(雌)死亡(50年飼育)。
8月8日、ナベヅル1羽(雌)をベルギーのホウカンショウ繁殖保護センターへ贈る。
8月25日、アフリカサバンナゾーン草食動物エリアオープン。

- 2001 (平成 13) 4月24日、秋篠宮文仁親王殿下ご夫妻が来園され、園内をご視察。
12月28日、上海市との第13次動物交流でナベヅル(雄)来園。
- 2002 (平成 14) 4月9日、クロサイのサミー(雄)をイギリスのチェスター動物園へ貸出。
6月15日、カンムリシロムク繁殖(当園初)。
8月17日、クロエリセイタカシギ繁殖(当園初)。
9月15日、大阪信用金庫様よりログハウス調の授乳室受贈。
10月15日、ゾウの糞から堆肥をつくる有機性廃棄物高速発酵処理機を設置。
- 2003 (平成 15) 3月11日、(社)日本動物園水族館協会主催の動物園の教育利用を促進するためのワークショップを開催。
3月12日、宝塚動物園の閉園にともないホオジロカラムツルはじめ5種11羽来園。
4月21日、22日、新ゾウ舎完成に伴いアジアゾウ引越越し。
6月11日、トムソングゼル(雄)繁殖(当園初)。
ゾウの糞からつくった有機堆肥「エレファント・ダン」の市民配布開始。
7月1日、ナベヅル1羽(雌)をベルギーのホウカンショウ繁殖保護センターへ貸出。
7月22日、ナベヅル1羽(雄)をベルギーのホウカンショウ繁殖保護センターへ貸出。
12月8日、フトアゴヒゲトカゲ来園(当園初)。
- 2004 (平成 16) 1月16日、新しく完成したアジアの熱帯雨林ゾーン(ゾウ舎)を報道関係者に事前公開。
1月31日、アジアの熱帯雨林ゾーン(ゾウ舎)の完成記念式典を開催。
大阪信用金庫様より受贈した子ゾウのブロンズ像除幕式挙行。
2月19日、上海市との第14次動物交流でミニゼンケンコウ2頭(雄、雌)来園。
2月24日、キバラスズガエル自然繁殖(日本初)。
3月31日、中川哲男園長退職。後任、園田義昭園長。
4月25日、フトアゴヒゲトカゲ繁殖(当園初)。
5月2日、ホッキョクグマのユキコ(雌)が老衰で死亡。
6月14日、ビルマニシキヘビ2頭繁殖(当園初)15日、16日、17日にもそれぞれ2頭、7頭、2頭が繁殖。
6月19日、「飼育係のおしゃべりガイド」を開催(毎月第3土曜定例化)。
6月30日、アイゾメヤドクガエルが繁殖(当園初)。
7月5日、ベンガルヤマネコ(雄)が福岡市動物園から来園。
7月12日、ブチハイエナが繁殖(当園初)。
10月15日、ツキノワテリムクが繁殖(当園初)。
10月25日、大阪国際交流センターにおいて、第52回日本動物園水族館協会動物園技術者研究会を開催。
10月26日、秋篠宮文仁親王殿下が来園され、園内をご視察。
12月、アジアの熱帯雨林ゾーン(ゾウ舎)が市民ZOOネットワークのエンリッチメント大賞を受賞。



2005 (平成 17) 1月15日、開園90周年を記念して、新たな催しとなる「飼育係のワンポイントガイド」を開始。
3月31日、園田義昭園長退職。後任、宮下実園長。
4月14日、アジアゾウの春子(雌)、来園55周年を祝う会を開催(以後、恒例となる)。
8月21日、6月下旬から7月7日まで募集した「願い事叶えまっせ」で選ばれた方にキリンへの給餌の夢を叶えていただく(以後、恒例となる)。
9月19日、敬老の日になちなみ、アジアゾウの春子(雌)、クロサイのサツちゃん(雌)、オランウータンのサツキ(雌)に長寿のお祝いとして好物をプレゼント。
9月23日、開園90周年記念シンポジウム「動物園が今おもしろい！」を大阪コミュニケーションアート専門学校と共催で大阪厚生年金会館芸術ホールにて開催。
10月23日、開園90周年記念イベントとして「大人のための飼育体験」を実施。大人向けの飼育体験は初。
11月1日、市民から懐かしい写真を借りて「思い出の写真展」を新世界町会連合会と共催で18日まで開催。明治～昭和40年代の天王寺公園や動物園、通天閣などの貴重な写真を展示。

2006 (平成 18) 2月、タイ王国スリン県と大阪市の青少年交流事業において、スリン県の13歳から18歳までの青少年10名が来園。
3月15日、ホッキョクグマのゴゴ(雄)が、ロシアのベルミ動物園から来園。株式会社達来様より受贈。
3月17日、上海市との第15次動物交流でチュウゴクオオカミ2頭(雄、雌)が来園。
3月30日、国内で最高齢のアミメキリンのサキコ(雌)が老衰で死亡(27歳)。
4月25日、ヒツジ、ヤギ、トカラヤギ、ミニブタを旧カモンカ園に新設したヤギ・ヒツジ舎に移動。
6月4日、市民の希望を受け、当園では初めて野外ステージにて結婚披露が行われる。
7月16日、1915年の開園以来有料入園者が一億人に達する。一億人目のご家族に記念品贈呈セレモニー、キリンとの記念撮影。
7月31日、旧カモンカ園を「ひつじ広場」と命名。
9月9日、アフリカサバンナゾーン肉食動物エリアが完成し、アフリカサバンナが全面オープン。關淳一市長ら出席のもと、オープンセレモニーが行われる。
大阪信用金庫様より受贈した、親子ライオンのブロンズ像の除幕式を開催。
10月17日、クロエリセイタカシギの展示を新しくなったシギ舎で再開。
11月、「絶滅の危機にある動物展」を初開催。絶滅したニホンアシカを始め、スマトラサイなど多くの絶滅の危機にある動物のはく製や写真を展示(以後、恒例となる)。
11月25日、夜の動物園ガイドを初開催(以後、恒例となる)。
11月26日、環境省と共催で、「外来生物について考えよう！「教えて千石先生！ー外来生物編ー」を開催。(財)自然環境研究センターの千石正一氏による講演や、飼育係と同センター職員によるガイドツアーを実施。
12月3日、ホッキョクグマのゴゴ(雄)に、誕生日のお祝いとしてサケ2尾をプレゼント。サケは株式会社達来様より受贈(以後、恒例となる)。

2007 (平成 19) 5月22～24日、(社)日本動物園水族館協会の平成19年度通常総会並びに協議会を大阪国際交流センターおよび当園で開催。23日には(社)日本動物園水族館協会の総裁である秋篠宮文仁親王殿下が天王寺動物園をご視察。

2008 (平成 20) 3月18日、ビジネスパートナー事業の記者会見でパートナー事業の7件を発表。そのなかで関西マルチメディアサービス(株)から提案のあった天王寺動物園の専用のホームページ ZOO×ZAQ が公開。
上海市との第16次動物交流で、チュウゴクオオカミ(雌)来園。
4月18日、(株)ウーマンライフ新聞社から、日本初の動物園からのフリーペーパー「Together」が創刊される。
7月3日、上海市との第16次動物交流でヨウスコウワニ4頭(雄2、雌2)来園。
8月2～31日、初の試みとして通天閣、大阪市立美術館、当園の3施設共通入場券を発売。

2009 (平成 21) 2月11日、通天閣観光株式会社様、大阪信用金庫様、阪神高速道路株式会社様、大阪芸術大学様、社団法人大阪市天王寺動物園協会様の協力を得て、アフリカサバンナゾーンのサイ舎の後方に見える阪神高速道路の遮音板にアフリカサバンナの風景画を描くために募金活動を開始。9月2日、国内で最高齢のコアラのハク(雄)が心不全のため死亡(21歳7カ月)。

2010 (平成 22) 1月31日、カバのナツコ(雌)が老衰で死亡。
3月31日、宮下実園長退職。後任、長瀬健二郎園長。
11月7日、千石正一氏をお迎えして、「カエルやカメの仲間がいなくなる！ Extinction of Herpetiles」と題して、絶滅の危機に瀕する爬虫類・両生類の講演会を開催。
12月1日、地下鉄御堂筋線動物園前駅(新世界側)北側の地下道に当園の飼育動物を描いたポスターのギャラリが当園の飼育動物を描いた

2011 (平成 23) 1月、高病原性鳥インフルエンザが兵庫県伊丹市で検出されたため、防疫体制を強化。「鳥の楽園」を閉鎖(4月6日まで)。
3月2日、浜松市動物園よりホッキョクグマのバフィン(雌)を借り受け。株式会社達来様が輸送費を後援。
3月15日、天王寺公園と動物園の間に連絡ゲートを開設。天王寺ゲートから公園内を通過して動物園に入れるようになる。
3月24日、上海市との第17次動物交流でジャガー(雌)来園。
12月1日、当園オリジナルゆるキャラ「ゴゴく」がデビュー。
12月15日、あべのキューズモールのキャンペーンにより受贈したケープハイラックス3頭(雄1、雌2)のお披露目式。



2012 (平成 24) 3月15日、白雪姫時計台のリニューアル完成除幕式を開催。大阪信用金庫様の協力により改修。
3月31日、長瀬健二郎園長退職。後任、高橋雅之園長。
4月1日、ゆとりとみどり振興局より建設局に所属変更(建設局天王寺動物園事務所)。
8月11～15日、お盆の夜間開園(午後7時まで)期間中は定例以外のおやつタイム・ごはんタイム、夜行性動物舎ガイド、ゾウの寝室ガイドなどを実施。
9月25日、ボルネオオランウータンのサツキ(雌)が42歳で死亡(オランウータンの飼育が途絶える)。
11月23日、アミメキリンのケニヤ(雄)が22歳で死亡(キリンの展示一時途絶える)。

2013 (平成 25) 4月1日、大阪市外の小中学生の入園料を200円とする。
4月24日、姫路セントラルパークからアミメキリンの幸弥(こうき) (雄)を借り受け。キリンの展示を再開。株式会社マルハン様が輸送費を後援。
12月20日、東京都井の頭自然文化園から、ナベヅル(雄)を借り受け。あべのキューズモールでのキャンペーンにより輸送費が集められた。
12月25日、アドベンチャーワールドからムフロンのツウ、テン、カク(いずれも雄)が来園。通天閣観光株式会社様が輸送費を後援。旧パーバリーシア舎で展示。

2014 (平成 26) 1月1日、100周年に向けてのカウントダウンとして臨時開園。様々なイベントを実施。
1月17日、クロサイのサツちゃん(雌)が41歳で死亡。生涯に6度出産、動物園での血統維持に大きな貢献。
3月28日、上海市との第18次動物交流で、アムールトラ(雄)来園。
3月31日、高橋雅之園長退職。後任、野原賢一郎所長。4月1日、組織改変に伴い、事務所名が天王寺動物園公園事務所に変更。
4月16日、開園100周年にむけて、動物園のロゴ・シンボルマークを一新。
6月5日、旧ライオン舎跡に新トラ舎完成。
6月18日、アミメキリンのハルスカ(雌)が来園。近畿日本鉄道株式会社様より受贈。
7月1日、牧慎一郎天王寺動物園改革担当部長着任。
7月30日、アジアゾウの春子(雌)が老衰により死亡。推定66歳。
9月23日、アジアゾウの春子を偲ぶ会を開催。

2015 (平成 27) 1月1日、開園100周年を記念して臨時開園し、お誕生日会を開催。
3月28日、ホッキョクグマのイッチャン(雌)がロシアのノボシビルスク動物園から来園。株式会社達来様より受贈。
3月31日、野原賢一郎所長転出。
4月1日、牧慎一郎天王寺動物園改革担当部長、園長を兼務。
4月16日、国内最高齢のコアラのミク(雄)が死亡(23歳)。
4月25日、「地下鉄まるごと どうぶつスタンプラリー」開始(11月11日まで)。
6月14日、100周年記念第4弾「ホッキョクグマのモモ「6カ月おめでとう！イベント」開催。
8月8日、100周年を記念し、期間限定で「ナイトZOO」を開催(8月16日まで)。



8月10日、天王寺動物園100周年と劇団四季ミュージカル「ライオンキング」1万回公演を記念し、キャストが来園。
10月1日、天王寺公園エントランスエリア(愛称「てんしば」)がオープン。同時に天王寺動物園の天王寺駅御開ゲート「てんしばゲート」がオープン。
10月6日、「ひつじ広場」を「ふれあい広場」にリニューアルし、「テンジクネズミ(モルモット)ふれあいコーナー」がスタート。
10月9日、各日限定約5,000名で「プレミアムナイトZOO」を開催(10月11日まで)。
11月1日、職員の新ユニフォームお披露目会開催。
11月21日、テレビ大阪制作劇場版映画「天王寺おばあちゃんゾウ 春子最後の夏」公開。

2016 (平成 28) 1月23日、淡路ファームランドから戻ってきたコアラのアークと息子のソラがお披露目。
2月29日、愛媛県立とべ動物園からヒガシクロサイのライ(雄)がブリーディングローン(繁殖のための貸借)で来園しました。
3月14日、第19次上海市動物交流によりビューマの雄が上海動物園から来園。
3月16日、コヨーテの幸(雄)が心肺不全で死亡。これをもって天王寺動物園でのコヨーテの飼育は終了。
3月25日、横浜市立よこはま動物園よりメガネマのブベ(雌)とウンビウのショウ(雄)が、横浜市立野毛山動物園よりフサオマキザルのムユゲ(雄)が来園。
3月31日、国内最高齢(当時)のコアラのアルン(雄、19歳)が死亡。
4月21日、ジャガーのルース(雌)が双子の雄の赤ちゃんを出産。
5月5日～8月21日、大阪ECO動物海洋専門学校様の協力を得て「奇奇怪怪！暗闇のサーカス～奇蟲の世界～」開催。
9月19日、秋の全国交通安全運動事前キャンペーン開催、ニワトリのマサヒロが1日高速隊長に任命される。

2017 (平成 29) 3月23日、第20次上海市動物交流によりブチハイエナの雌が上海動物園から来園。
4月1日、年間バスポートの販売開始。メキシコのプアリカンサファリよりカバ(雄)が来園。
10月30日、横浜市立よこはま動物園よりエランドのミナミ(雌・1歳)をブリーディングローンで来園。
12月1日、オリジナルフレーム切手「天王寺動物園103周年」が大阪市内の天王寺区をはじめとする7区、108の郵便局で販売開始される。

2018 (平成 29) 1月12日、ウンビウのショウ(雄14歳)が死亡。
1月25日、アジアゾウのラニー博子(雌)が推定48歳で死亡。長年に渡り、天王寺動物園に貢献。
3月9日、「天王寺動物園101計画」の行動計画(アクションプラン)を公表。
3月15日、チュウゴクオオカミのユジン(雌)が14歳の誕生日の1日前に心タンポナーデで死亡。
3月19日、障がいのある方とご家族・介助者の方に休園日の動物園をゆっくり楽しんでいただくため「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」を大阪信用金庫様の協賛、大阪市社会福祉協議会、大阪市天王寺区社会福祉協議会、大阪市阿倍野区社会福祉協議会のご協力で開催。
12月3日、アドベンチャーワールド(和歌山県)にブリーディングローンで貸し出ししていたホッキョクグマのゴゴ(雄・12歳)が帰園。





2019 (平成 30) 3月21日、春のナイト ZOO「SPRING NIGHT ZOO」を開催。
 7月23日、第21次上海市動物交流により雄のジャガーが上海動物園から来園。
 9月11日、グラントシマウマのヒデオシ(雄・27歳)がエランドの雄と闘争し角で腹部を負傷したことが原因で死亡。
 9月27日、カリフォルニアアシカのキュッキュが行方不明になり、前日の池掃除の際に排水口から脱出したと思われるので下水施設の捜索。
 10月1日に発見。
 10月10日、当園職員が同行し、コアラのアーキがイギリスのロングリートサファリパークへ出園。
 11月22日、てんしばゲート横の新エリア「てんしば i:na(イーナ)」が近鉄不動産株式会社との協定による事業として開業。
 12月17日、公益社団法人日本動物園水族館協会の動物園技術者研究会が当園が開催園となり開催。ご臨席のため来阪された秋篠宮皇嗣殿下が爬虫類生態館(アイファア)やカバ舎などをご視察される。
 12月28日、ビュウマのピコ(雌・17歳)が死亡。

2020 (令和 2) 2月17日、天王寺動物園 101 計画アクションプラン評価会議を開催。
 2月21日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夜行性動物舎、コアラ館、は虫類生態館(アイファア)を当面、閉鎖。各種イベントも開催中止。
 2月27日、3月31日をもって閉園するみさき公園からマーラ3頭、ワシミズク1羽、グリーンイグアナ1頭が来園。
 3月3日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休園(～3月23日)。7日から近畿圏の動物園水族館が始めたのを皮切りに、「#休園中の動物園水族館」という共通ハッシュタグをつけ SNS で情報配信を開始。
 3月26日、フランスワルトンのココア(雌・4歳)が横浜市立よこはま動物園(ズーラシア)からフリーディングローンで来園。
 4月19日、日本動物園水族館協会が推進し、毎年4月19日に全国の動物園や水族館ではば同時開催している「飼育の日」イベントが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。天王寺動物園では代わりに YouTube によるライブ配信リレーを実施。
 4月7日、大阪府内に緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月8日から当面の間休園(～5月25日)。休園中はスタッフブログが動画で動物たちの様子を多数配信。
 5月30日、営業再開後最初の週末で多くの来園者があったため、新型コロナウイルス感染予防の観点から、入園制限を実施。以降混雑状況についてスタッフブログで発信されるようになる(土日祝事前予約制導入まで)。
 6月22日、3月31日をもって閉園したみさき公園からニホンジカ5頭(雄2、雌3)が来園。
 6月28日、毎日放送「情熱大陸」で天王寺動物園の休園中の様子について特集。
 7月8日、例年夏休みに開催しているサマースクールが新型コロナウイルス感染の拡大防止などを踏まえて中止。代わりに「天王寺動物園 踏まえてオンライン」を8月8日から10日まで実施。



2021 (令和 3)

8月8日～、長居植物園主催、天王寺動物園の協力で、「動物と植物のつながりクイズスタンプラリー」を実施。
 9月1日、利便性の向上に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、インターネットによるチケット販売及び入園予約(WEB チケット)を開始。土日祝の入園は事前予約制となる。
 9月30日、オウサマペンギン2羽がフリーディングローンで台北市立動物園へ出園。
 11月25日、ホッキョクグマのイッチャンが2頭の赤ちゃんを出産(内1頭は後に死亡)。
 3月9日、新施設「TENNOJI ZOOMUSEUM」(てんのうじズーミュージアム)、「FooZoo」(フーズー)、「GooZoo」(グーズー)等がオープン。施設内の多目的ホールの机やイス等の備品一式と、休憩棟に設けられた授乳室の設備一式を大阪信用金庫様の創業100周年記念事業の一環として寄贈していただき、ホールは「だいしんワクワクホール」と名付けられた。
 3月23日、ホッキョクグマのイッチャン親子一般公開。赤ちゃんは父親であるゴゴと母親であるイッチャンをご寄贈いただいた、株式会社蓬萊様のご提案でホウちゃんと命名。
 3月31日、牧慎一郎園長退職。
 4月1日、地方独立行政法人天王寺動物園発足。動物福祉を第一の柱に新たなスタートを切る。山中諄理事長就任。向井猛園長就任。『天王寺動物園 倫理と福祉の基準』策定。
 4月24日、大阪府域に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」が発令され、臨時休園(～6月21日)。臨時休園中のゴールデンウィークをライブ配信ウィークとし、毎日公式 YouTube チャンネルからライブ配信を実施。
 6月22日、「緊急事態宣言」の解除をうけ、感染症対策を講じつつ再開。
 8月13日、感染症対策を講じつつ、夏のナイト ZOO 開催(8月13日～15日、21日、22日)。



To Be Continued...